

NOBANK COLOR CONTROL PATCHES

© The Inken Company, 2000

LICENSED PRODUCT

Blue Cyan Green Yellow Red Magenta White 3/Color Black

A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 B 13 14 15 17 18 19



播磨巡覽記

ル 4
1215



門心器
番 1215
巻



ひくし舟を左様しりひめら姫崎まきらの舟程
新吉積神社とて佛ぶつ匠じやうとあしく
志る所をさびび姫崎ひめらより清きよみのみ
幸さい訪ほうしし左様さよう福ふくるる及およびままるる一一旦
姫崎ひめらの舟ふね直ちか郷がう乃なり名なふふふふとと其その舟ふね
巡めぐ覧らん乃なり候こうりり侍ざむらい中ちゆう下げりり

壬辰壬戌三月 於此新儀





播磨老々の紀

浪華 田原相常記

大坂より尾崎口三雲川舟をり

大仁村乃右左馬。浦に村を乃左馬より

○海老江新力乃乃左馬。○野田渡舟をり

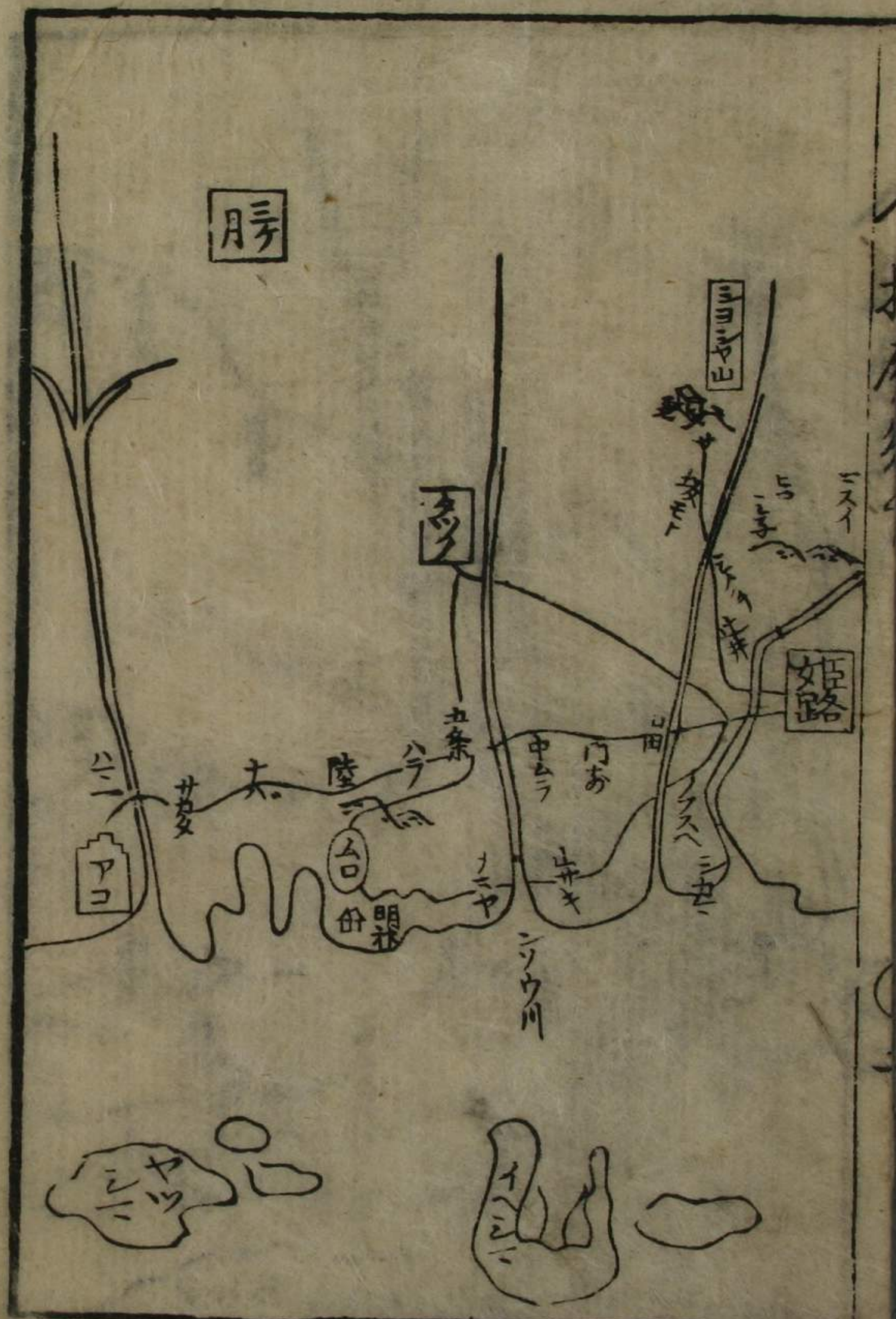
○野田村八所堤。○佃田渡舟をり。○佃田村

尾崎入口舟をり。○尾崎宮に式雲

津城を川舟をり。船着る大坂川舟の通路

中野村より

三



河ハ整昌の所也此亦美物の浦と云ふ。送梅松の古伝を所の内あり

○東新田 ○琴浦法。東新田西新田の間浦なり。此の浦に八王子大倉源融と云ふ。此の浦に六條河原院（此の浦に湖と波をある古伝あり）又此の浦に琴浦といふ。琴浦に捨た山松といふ。波も此の浦に西新田村 ○武庫山。此の右あり。高の山なり。

○六甲山神呪寺。武庫山の腰にあり。此の山は定安神功皇后夫故追治のほ甲冑と云ふ。此の山はあひし。此の山の名と云ふ。○武庫川。武庫川は松原にあり。泉流之樹乃不飯橋と云ふ。此の川は西新田にあり。

武庫川は河と云ふ。此の川は武庫川の北。押野宮武庫川に二箇あり。たの山に少社あり。孝徳天皇大化二年十二月の冬、温湯より。孝徳天皇の時。

武庫山

武原のいさふさまりあす日午紀ふさうり
鳴尾の里日浦古あふ
枝川尾流の吉里武原川の枝川之若くは
枝川尾流の吉里武原川の枝川之若くは

西宮

尾原佐古の武里

○我市社有向洋教太門の
たを命之○西史所とやわし
造ふ名あり○沖和沖
宿川原

○金津山南の右打もの家
○打も宿のたを命之
け西の人をあらて村
大坂を東南ふも
所街原の右山
仍平遠立れ
け原の山
あけをす

五

○若原川系○行田川も河川は流る細き流石
たり。糸懸うと形。弘法大師の呪する所と云ふ。
及々炭多し行田村の入口なり。行田村。右宮分
先と喜軍軍。是より卷原佐吉。中室。○山路城流
行田の石より中室。赤松佐祐。婿男。佐徳判友苑
実く結城せり。亦なり。在平比ふあ。とより。○若原
里。御原石。山より中室。名前と古歩多し。兼平居
竹の古歩も。○炭業屋敷。○糖塚。○平光屋敷。○

糖原太史の古記録。○佐吉川系○赤土塚。佐吉
川の石有るなり。三筋斗たぐちぬの石の塚なり
○御原村。御原の石。なみか。向原。けち。石。と云ふ。
御原石。けち。なり。皆。く。す。で。け。智。と。云。ふ。し。ひ。ま。り。
御目とし。巻多し。○若原佐吉村の南西の石。名。
小松原といふなり。

卷原佐吉 卷原の事と云ふ
佐吉神社の祀は元月廿五日。村東。南西。御原。なり。

云原に三里

佐吉村のむらさきより摩耶山にりたる又賜信の
 記に中海にた記を○名宿海にりて何
 た海を離浦にりたる大石村を古きあり
 灘の境やさき若の原離郷に離るるはさき
 ○石原川又石原川よりなる所○せり川系
 ○東女塚海にのたを自村のあたりの女の塚なり
 まごみどり村の東海にのたのたのむらさき男の塚に
 新田系久東塚をむて勢の時夫と防も六げり

○みどり村○みどり川系○灘村○脇浜海にのた
 海にのた村に海邊あり○敏馬浦にあり
 ○敏馬神社海にのた海邊あり○弓玄洞窟を自
 村のにおまをり○若原村にあり摩耶山を
 ▲摩耶山海にのたを平岡村にあり
 佛母摩耶山切利天とて号して天武天皇に御
 法道仙人のま創りて十面観音に似たる像を
 する像といふ法道仙人が胡ぶ来ると當山にあり

摩耶山

高懸川



高懸川

高懸川

このかゝる観世音を彫刻して、おのき像を胸次と納め、
法蓮入天竺の人を、その書物の中におさして、
其を成人天竺導引し、後を那と經て、吾日域小入。
揚子中右法華山、掘て多く精舎を營むを
元亨親書ふ事。○夫人堂あり。○中堂あり。
圓院中堂のたな有。けいんとるを、多く、燐洞あり。
上ふ心壇を坊令有。古藤の地之樹あり、堂塔
屋根遠よりあり。○摩耶城跡、赤松岡、城跡あり。

○下向及中尾村、慈円村まで、生田川の東の堤へ出て、
中尾及慈円、同くよく立れが、葉田と備て
り。○中尾村、毎年正月、生田川に、あま菜と、禁裡人
献し、お盆をけり。○慈円村、けいんの民が、葉田村と
○砂子山、布川の山と、お方あり。○布川の法
海、平峰下右の方、男法如法、二法あり。○法寺
布川山、法昌寺と号す。お寺、お観音、紋約者の
沖作、雲内、懸崖を、平此、観像あり。平家、お法、平

書は、お地、あり

法堂の遊々する所なり天候の雨
鳴して其平此亡霊雷となりて
教せりとのめて其平此霊きつら
波之郎経後此遊臺に入る幸とのせり
○寺より生園社へ往り

○福井義屋○生園川系沖社よりある所なり

○生園歳日山日川よりとむる所なり

生園寺は向ふの寺の邊生園の松の林のたけのり

○生園神社 春日宮をまつる霊の八月十五日なり○
麓の梅境角重く、門の松の並樹は花の経く交りて
進歩あり。大景地○社地古後○僧侶法流
生園寺の古流あり

○川原足分塚 春日宮の東所なりある所の

右、奥中木松二木、塚のまゝ、永永二年二月廿

一、谷合敷、討死也。東家物語より

○梶原井。ちん云景時公を討つて武運を結なり

長野の寺

十

一 教を九所せり也。○城は市名。生田社より
七八所。山城は村を梶原景時が二座のかけの所。片
里人のまき。一市名。○神社。河を九十所半。
そんきう。此所。神戸の所。きく。きく。の所。きく。きく。
海。の。た。ま。を。な。ま。ま。と。捕。ま。り。ま。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。
庫。の。所。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。
○字。治。の。川。神。經。の。出。口。海。の。た。ま。の。川。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。

治の村あり
○再度山大徳寺 又摩尼山と号す。字治の村あり
此寺。山。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。
心。の。同。基。也。延。曆。中。弘。法。大。師。求。法。の。事。を。振。て。入。唐。
河。の。預。め。轉。して。予。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。を。な。ま。ま。
と。か。り。毎。年。二。月。廿。八。日。弘。法。大。師。の。法。人。孫。某。と。い。ふ。傳。人。
俗。傳。不。摩。羅。山。と。い。ふ。所。に。再。度。山。と。い。ふ。所。に。い。ひ。傳。人。
と。り。い。つ。た。り。由。り。未。詳。

書

廿一



○楠堂正成の石碑。楠堂の碑は湊川より二町半
 あり。河原の右白田の中をむむ。一墳墓。松林の
 二本あり。今石碑あり。此堂のときより
 復興。元禄六年壬申八月。水戸藩の石碑を建
 たり。碑文。正成像の写。廣嚴寺より出るなり。
 ▲醫王山廣嚴寺。右石碑より三町半。坂中村あり
 石碓。碓屋。建立あり。同山支那後の極福師
 元享元年七月。元禄綱。元禄の南。元禄。元禄。

高平地なり

十三

後小姓寺に用ひたり

宝物略記

多聞天菩薩像

明極禪師像

正成甲冑像

正成衣冠像

日采帯

日采帯

軍配圖扇

後像正成衣冠の像

後像正成衣冠の像

右様見許容り

右様見許容り。付寺、則指の一旗之古徳也

○湊川海原の川あり。あな地あり。松原あり。

湊川を渡りて。風を吹きて。波を打つ。月夜のこゝろ

○湊山。湊川の川より。古きなり。○雪見亭。古徳の湊

山あり。平信堂。雪見亭。下なり

○養神村。湊川の川より。村あり。むかしの關。鎧。旗。砂。壺

の古徳也。○むら。人をば。け。お。あ。り。ぬ。め。が。ふ。か。さ。ら。ふ

師。ら。雪。麻。の。女。麻。い。あ。り。こ。よ。ひ。の。あ。ふ。我。お。よ。お。お

そ。う。た。ら。ひ。さ。ら。し。ま。し。ひ。た。れ。北。麻。の。い。や。が。能

く。ほ。い。た。し。村。人。を。お。お。り。ぬ。皮。と。ん。ど。い。お。お。し。た

ぬ。ま。を。人。と。い。ひ。ま。ば。あ。人。お。お。り。ひ。て。雪。麻。の

出物くさうがひゆるがけが子猫人なむを
付く新々をちりまうつ子種を愛時と申すと
ま本

のせくやいれりんうは野村愛時の康法あまふ

○差方塚。荒田村の東山より一と今ハを示さるか
志水と治兼口也。多摩福永の新起と平相法あまふ

管一時的條大納言は細朝臣その方地と定てあまふ

こをと築くといふ○平家登口あまふ 山名古流

湊川のよ。ゆり田村○佐比江多摩の入口。海江の板

橋の上をがまのあといふ

を流く道のふをぬさひい玉原新と今を信あまふ

兵庫 橋列矢田郡福永庄 西須磨 武蔵

中を流くまを運んといふまうけ湊中。所多し。

○籠岩寺。経石山名途ちと号する平法登建あまふ

中を流くまを運んといふまうけ湊中。所多し。

時自年●松王小児七歳像●徳の精也像あまふ

先その髪筋少くぬひの像と●弁成と像あまふ

梅實の時傳來 ● 梅實の影彫刻像 ● 平家物語
延保元年より此塔を築ゆりははるく由り
先ひらには年時まはるはゆりか人柱ありきも也
なほと、意匠で飛業なりんと石のむすへ一切経を并て築
りてあり、碑文なりく、とて、（註） 嘉祥寺に法燈の臺あり
小堂ありて、法人の命ありて、白雲を著し、海中あり
まづも、それより築ゆり終すところ、ゆりて、（註） 流ありや
まづ、ゆり、今此所を築ゆり、（註） 塔あり

○和国松 志光の北浦なる松の下流と、（註） 流あり、
只その松、松下り、（註） 松あり、
才より、古あり、○和月山志光寺、（註） 寺あり、
中寺觀世音 ○一遍上人塔あり、（註） 塔あり、
開山法心師、（註） 師あり、
骨を納め、（註） 骨あり、
十二重塔あり、（註） 塔あり、
只毘盧を、（註） 毘盧あり、

（註）

いさかきへり。○すまは入江。清葉の塔は後之。古き事。
○八棟古古後。○梵音寺古古後。法堂万燈舎よりす。
○菅原所古古後。橋の市所よりす。○本間を矢の古古後。
和国橋より西へ之所。小松系之。建武年中。新田三州の
義不。舟寄線守部。新氏つを矢射てもあせり。古古後之
○和国橋。橋田をす。さ。会原の南。海中に居て。出する
海流之。大和川の浦と。和方小流り。○内裏流。治義
年中。福来の勢の古古後之。四河原。築地の流。今、松林と云

○巨龍山福藏寺。同山仙姥出所。なる新也。入海
菅原より。○石を会原の内なり
○会原の西へ。つぎ。春守への原。永田川。永田
の作。水坂峠と云。をいす。これ。轟つ。い。ゆる。く。魚
の。石。より。出。る。は。な。き。と。つ。た。を。り。れ。と。ん。り。
○平通。壙塚。会原より西。十町半。海原の古古後の
堤。小松系。なり。義不の西へ。○本村。海原の古古後の
海の中。小塚。之。柳の本。を。里人。を。語。め。と。い。ふ。と。海。原。と
あ。い。や。ん。が。)

101



102

103

付、本村河と金澤と。○荻原川。海名の川と
 ○金澤川。かき河の下。海名南と所。在津鹿村。海名
 小海川。海名と。て行。く。月。お。り。ゆ。く。ま。の。津。あ
 ○長田村。海名の左と所。と。の。く。は。村。の。た。く。の。津。あ
 の。ま。ふ。新。中。納。金。平。知。素。た。塚。と。○長田社。在。代。を
 考。ま。つ。所。を。并。の。類。山。津。及。風。津。迄。之。日。本。記。に。曰。
 神。切。里。后。新。羅。之。代。の。以。多。皇。子。の。所。海。中。と。を。む
 こと。河。と。い。ふ。文。よ。武。庫。の。海。の。所。と。い。ひ。て。ら。し。ひ。の。事

夏。代。の。海。名。を。曰。我。と。神。行。長。田。の。山。と。稱。せ。し。則。ち
 系。山。媛。の。弟。長。媛。と。て。系。山。の。事。と。日。本。記。に。ま。る。く
 系。山。八。月。十。日。○甚。の。地。海。代。村。の。東。と。り。色。海。名。の。右
 少。と。い。は。基。信。此。地。ゆ。め。の。地。と。け。津。の。上。と。神。接。の
 と。い。ま。と。考。え。た。山。と。い。ふ。里。人。云。神。切。里。后。三。轉。り
 海。の。海。代。村。と。い。ふ。原。也。と。い。ふ。海。と。接。る。事。忽。ち
 山。と。い。ふ。事。も。さ。り。せ。○海。代。村。は。村。の。海。山。の。此。田。中
 海。中。と。い。ふ。事。も。後。塚。と。○神。田。村。海。名。の。所。と。い

海代村

十八

け村小登人松との大木を。取と栢松といふ海鳥不
 りて。釣夕志。原のうゑ。百なま。ゆへかく。子や。く
 望を白波といふ。○淀。継橋。海原。十所。手。た。
 釣。林。の。村。ら。り。と。や。を。り。り。一。間。半。此。橋。を。り。
 毎。ま。ま。の。浦。は。と。り。と。月。を。夜。り。り。淀。の。継。橋。
 ○二。系。松。釣。林。村。の。原。氏。松。と。い。ふ。男。並。女。並。の
 ま。へ。へ。松。と。い。ふ。文。解。本。の。な。二。釣。斗。枝。は。四。方。を。垂。り
 ○老。彦。塚。海。原。十。所。手。左。の。か。り。釣。林。村。の。西。の。り。と。

中。の。老。彦。と。赤。氷。二。年。二。月。七。日。討。死。す。ま。と。明。石。の
 大。森。谷。と。塚。の。り。○磯。刈。松。東。須。磨。の。り。西。須。磨。
 ち。そ。れ。間。海。原。の。松。と。す。で。磯。刈。松。と。い。ふ。り。海。原。
 空。所。左。海。原。と。い。ふ。り。
 須。磨。の。浦。や。流。石。と。い。ふ。磯。刈。松。と。い。ふ。海。原。の。り。目。之。松。
 ○釣。平。松。と。い。ふ。松。の。名。と。い。ふ。中。須。磨。を。り。
 ○東。須。磨。村。海。原。を。り。羽。部。と。い。ふ。り。
 ○釣。平。月。見。松。中。須。磨。右。の。中。須。磨。松。十。所。手。と。い。ふ。り。

高上松と云ふ

十九

縁をらねまをの糸とて久しきや新の山風

右をわりのり歌謡なり

敷笠甲冑 曰赤旗名号 法徳之人の由なり

赤子名号 世をひのりまあり

赤子名号 世をひのりまあり

曰母衣名号 蓮生法師 赤子名号とすくあり

法の水とて 硯をいさへ 八具足 河津院佛力

若本のさくら 此刺札 一幅

此花は南無阿弥陀仏に枝物 蓮葉若任天衣 紅毛を例 伐一枝を二葉一指

嘉永三年二月日

右の宝物百羽とて 用帳あり

○後の山すくは鳥のしらさきとて古あり

○澤竹 神切屋后 紀あま松浦の所也 粘と納あり

○納竿とて山姥極あり 枝葉をかて今ふとて伝ふ

○義経腰掛松 ○持鏡 丹草山 回系村 森あり

書之 納あり

の精なるを源平二合戦の時、養徳保壽とす。その後、ついでに源平二合戦の時、養徳保壽とす。その後、ついでに源平二合戦の時、養徳保壽とす。その後、ついでに源平二合戦の時、養徳保壽とす。

た右の言に、源平二合戦の時、養徳保壽とす。その後、ついでに源平二合戦の時、養徳保壽とす。その後、ついでに源平二合戦の時、養徳保壽とす。その後、ついでに源平二合戦の時、養徳保壽とす。

中世の物語

二二



西のり。○鴨越 橋掛其申腹おかり南ふひりき
ころあまゝ 甚難おるあへ 大なる相まの 越へ 能ハ
とらまを。はるわりと。○内裏後 平三言方ふ
治まり。あ永之兼。妻連を 遷幸ありし。空の
何とあり。○二言 甚きま。所條幅分。平九間
浪打渡すて 平間斗。○二言 甚き。二所條幅十九ら。平
九言。浪打渡すて 平方斗。は言の して 杖伏家と
い。神功皇后政朝の時。は言を。あひ 徳軍士甲を

伏せ間業を海り。地おは名ありとしひは。りり
○教盛石塔。二言のや。あ厚の 存。塔の 言。ま
ま。人。甚石。方。人。と。今。六。中。砂。不。埋。進。て。は。言。石。を
は。言。ま。く。岩。さ。つ。て。塔。と。り。教。り。り。あ。ま。り。と。云。は。り
たり。旗。人。見。女。の。ひ。な。り。と。す。と。生。園。表。り。は。言。と。
あ。永。年。中。源。平。の。古。戦。場。を。り。あ。ま。り。と。云。は。り
○境川。あ。厚。の。川。を。橋。列。抜。列。の。さ。ま。ひ。り
○塩倉村。あ。厚。の。村。は。十。分。一。里。是。が。時。定。成。る

日向大崎神社由乃の右○淡路崎にありたるの
浦と云ふ由也○西意ありとす里

つららと云ふとすまらかき浦の浦や西は風ありたりは山

○西意水村○仲哀天皇塔西意ありの岬を述り

中野中切て右の方より中野○五色山あり塔より三

十乃斗衣の方よりむむ一足仲哀天皇塔西意あり地

幸なり子持のむと西意ありを述後あり一後と

矣今ふとて地中ふ西意あり西意のりふ西意とたがり

○かき磯の鼻山岡村の土名○群子磯分二所中ありと

海乃のた浪高きなりかき磯磯○群子磯山岡村の

二所中ありとありと西意ありと西意ありと西意ありと

西意ありと西意ありと西意ありと西意ありと西意ありと

西意ありと西意ありと西意ありと西意ありと西意ありと

西意ありと西意ありと西意ありと西意ありと西意ありと

西意ありと西意ありと西意ありと西意ありと西意ありと

西意ありと西意ありと西意ありと西意ありと西意ありと

加古川

○山田村 ○大森谷 明の入りなり。をさ知りり
 ○天祥神社 大森谷 松林の中なり。あらの右よりなり
 爰云左邊の時 津長寺 時慶 表とふ 符と里人ふ
 河さあひ 古縁 奈社と建て 今ふなり。雲あさる 河と
 既 教先生 文お糸 一 ○稲川社 大森谷 左の右
 側より ○砂子 横宮 左の右なり。社の名 枯す ごと
 河のの 磯とよと云 傳ふ ○人形 神社 河原の 二所 斗
 左の 陸の 河原の 所 の入に 河城 河原 所の へら 是 分 在

④ 河の 河なり。はらふ 少 左 入て 老 彦 塚 之 ○人 磨 碑
 寛文四年 甲辰 孟冬 朔 石 城 自 松 平 日 向 源 信 之 儀
 建より。文を 弘 文学 士林 祭 撰之。碑文の 写し 出たり
 河社 有 面 也 其 坂 社 右 之 社 既 有 河 松 田 之 寺
 あり。大 累 塚 之 今 人 形 社 龜 元 年 一 月 八 日 薨 一 あり
 享保八年 癸卯 二月 十日 千年 忌 の時 宣 下 あり。正 位 掃
 衣 大 明 神 之 贈 あり。○ 月 照 寺 本 寺 新 也 本 寺 在
 河 原 也 河 原 寺 之 本 寺 也 尚 ○ 大 森 谷 塚 之 寺 之 本 寺 也 尚

大森谷

二二二



陸路島

舞子浜

明石の大橋梁田坂^{あかし}が^た生^まれ^た建^つき^し碑^はの^まの^まり
 此^この^まの^まり^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^り
 中^なか^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^り
 源^{げん}氏^しの^まり^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^り
 ○^おの^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^り
 後^ごの^まり^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^り
 今^{いま}の^まり^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^り
 望^{もち}と^する^まの^まり^のま^りの^まり^のま^りの^まり^のま^り



時をたたくもあはれとて假し時まゝのほは甚をいひふ
 ともやうふもゆかりり。〇石を赤石とて二里人丸の
 後らひを〇赤石寺。まづ西向に門より一所中入て石
 壇あり。中堂。南面なり。某作某法入者寺と約るふ
 壺造りり△石をまの石のてなとて。又今も傍に
 乃りりふもさす。〇壺井川板橋あり。橋とつりて川の
 中も待て。凡そ軍中にて中も腰も橋とて乃半壊あり
 風景もよとて。〇脇村をさるる所〇越山をさるる

ちまひゆりり
 〇二十八

惣持大の神は社にり。播下るの社社とにせまうこと。
是より此の社とせり。此の社とにせり。此の社とにせり。
おひし山に村にあり。此の社とにせり。此の社とにせり。
まき山に腰にり。此の社とにせり。此の社とにせり。
是より平地に。此の社とにせり。此の社とにせり。
是より平地に。此の社とにせり。此の社とにせり。
是より平地に。此の社とにせり。此の社とにせり。
是より平地に。此の社とにせり。此の社とにせり。
是より平地に。此の社とにせり。此の社とにせり。
是より平地に。此の社とにせり。此の社とにせり。

宇田橋の石を。此の社とにせり。此の社とにせり。
畑の水の便り。此の社とにせり。此の社とにせり。
業と云ふ。此の社とにせり。此の社とにせり。
右の春の。此の社とにせり。此の社とにせり。
○二見浦。此の社とにせり。此の社とにせり。
西二見村。此の社とにせり。此の社とにせり。
小久保。此の社とにせり。此の社とにせり。
中保。此の社とにせり。此の社とにせり。

入道

二

尾上

尾上神社

石室殿のまき里

沖社東向○尾上林ハ社前の松林ニ松葉のたけあり

○尾上松尾角あり○尾上鏡。当社の御殿あり

○河まのゆか。尾上林の西をながむ。乃古才河斗。田畑の中

あり。船をり此石をり

高砂 尾上より宇所。入石川を。舟渡之。河ハ高砂の

森なり。たぐやうの湊なり

○高砂沖社南向半願天皇。云々。高砂とまうらあり

尾上とちり下沖社。元元九月十日○相生松。境内

沖社を。高砂の岡つと。とやく。社前の湊を。とめり

○荒井村。河井河あり。真徳。大寺あり。あり

○村あり。富家あり

○尾上神社。南向松林あり。あり入り。元元九月十日

○尾上松。社の右を。若云。松は。また。社前の

松あり。世ふ。傳り。名あり。新く。寺あり。あり。あり

○尾上村。石室殿。まき里。まき。娘。あり。あり

尾上

三十一



石宮敷
石宮敷
石宮敷
石宮敷
石宮敷
石宮敷
石宮敷

石宮敷 或、静寂と云ふ。伊南郡宇石村あり。
惟、此と伊古川の間の流石の中心なり。祀、神宮位
大の神生、宇大の神、宇里人云、太古を命、天宮に
小宮あり。伊古川あり。生、大の神と云ふ。是、伊古川の
大の神あり。其、伊古川の神、伊古川の相と云ふ。伊古川の
切、伊古川の神あり。伊古川の神、伊古川の神と云ふ。伊古川の
伊古川の神あり。伊古川の神、伊古川の神と云ふ。伊古川の
伊古川の神あり。伊古川の神、伊古川の神と云ふ。伊古川の

のこめふ病を療する方と定め法ひすこき歎此法乃
 こめふ病と云ふまじき山の法と云ふまじき今ふ
 此法より牛を以て守り札を以て
 おなむらひの養育のまじき法にせよまじき世に
 ○結山 石室屋敷あり南に中へ法を以て築す
 とらふまじき法なりまじき法なりまじき法なり
 かりまじき法なりまじき法なりまじき法なり
 ○市筋村 善光寺と云ふ寺あり ○洞見寺 河津院

とも子村よりまじき法なりまじき法なり
 ○豆橋 ○福井 ○清見 毛より法法を以て築す
 ○山脇村 ○市川 後 ○東方社 ○西市社
 法法
 市城山あり城下町ありまじき法なり
 ○惣社大の社 侍所ありまじき法なり
 惣社大の社と云ふ類と云ふまじき法なり
 法法 善光寺の法法在坂中まじき法なり

善光寺の法法

増位山

増位山 随願寺

牛字より卒所

平昔業作の業 臨立民河つ天の女子親者しけらの用

基約基大傍心作の 眞院約基菩薩像

○増位山より廣澤寺 中里より安の岩佐より小

由くたう 難ふあう次

廣澤

廣澤郡

増位の山より

中里より 吉田 輪田 娘公家 山城 祇園の

中里より 吉田 輪田 娘公家 山城 祇園の 和幣

法華山

法華山 一乘寺

比治より 聖乃三堂 牛字より 聖乃

眞院

眞院 田山 貴なり

○法花山より 比治 比治 比治 比治 比治 比治 比治 比治

比治 比治 比治 比治 比治 比治 比治 比治

比治 比治 比治 比治 比治 比治 比治 比治

中里

中里

○今と法花より法あり八里有る又車乃千里始なり
ゆりたけ乃又車乃千里

法花の法ありの道程

法花の せんきりて せんきりて せんきりて
神村の せんきりて せんきりて せんきりて
ひまきり せんきりて せんきりて せんきりて
かえりて せんきりて せんきりて せんきりて
かえりて せんきりて せんきりて せんきりて
かえりて せんきりて せんきりて せんきりて
かえりて せんきりて せんきりて せんきりて

○今と法花より法あり八里有る又車乃千里始なり
ゆりたけ乃又車乃千里

法花の法ありの道程

入
雙
飛
鳥
圖

双 双



乙
二
七

双

八
家
地
蔵



乙
二
七

つゝもむいふか所とあり。まゝと難風とまゝなれば
用捨す。

一 倉庫より大坂へ船を動かす時おの。難風とまゝなれば。

大坂へゆくお此よりお船を動かす。

一 藩中へ行くお此よりお船を動かす。

お船は緒をききまゝに動かしてさきさき行く。

船中へ行くお此よりお船を動かす。

つゝもむいふか所とあり。

一 此書は只海程の事をいふ。且つ、ゆゑ

ゆゑ人の心を安んずる。おの心を安んずる。

進まなくして人をお安んずる。

一 凡庸中へ小川をいひ。川をいふ。

皆山川をいふ。大坂よりとある。

一 序の末の末といふ。大坂よりとある。

大坂より

大坂より

明和第九壬辰春三月吉日

文化四丁卯正月吉日

順慶町心齊橋東入

柏原屋與龍衛門

大坂書林

心齊橋通南久宝寺町

塩屋平助

高橋興文堂藏書目錄

大坂書林

塩屋平助

和漢朗詠集

壺流水外等

全二冊

和漢朗詠集

近湯流

全二冊

賀章豐文

長玄海堂等

全

假名附消息

和等

全

必要書札

和等

全

分限書札

日 等 又書内又色上下の法式と云 全

常用消息

日 等 日く後書と云る所の文章と云 全

雜要章

日 等 日書に附録無様集と云 全

一 年 帖

日 等 一年中の要文と云る之類と云 全

高賣往來

日 等 日又入 全

御家庭訓往來

日 等 日又入 全

年中かゝる文

日 等 三十六体のちりしと云 一冊

世話千字文

日 等 日又入 全

御家百人首

日 等 百体のちりしと云 全

歳時文章

日 等 日書のちりしと云 全

新書子往來品

全 大冊小冊小鑑のちりしと云 全

高句用之状

全 御家文通一巻 日又入 全

系道早合点

全二册

系乃心むきし書とてたまはるる
さうらひしとてと書とて抄るる

近代世事流

全五册

凡天地のちゆらん人の衣冠飲食言まは
るは木とれく門部とてさうらひるる
さうらひるるさうらひるる

女教文海智恵袋

全一册

高世の女用文書とてまはるる集その外
群人教訓法礼まはるる

皇都

植村藤右衛門

東都

須原茂兵衛

書舖

名古屋

片野東四郎

摂都

製本所

高橋平助梓



